

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成24年10月15日

**【四半期会計期間】** 第10期第2四半期(自 平成24年6月1日 至 平成24年8月31日)

**【会社名】** 株式会社アークコア

**【英訳名】** ArkCore, Inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 正渡 康弘

**【本店の所在の場所】** 東京都足立区椿二丁目2番2号

**【電話番号】** 03(5837)3611(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理本部長 土屋 勉

**【最寄りの連絡場所】** 東京都足立区椿二丁目2番2号

**【電話番号】** 03(5837)3611(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理本部長 土屋 勉

**【縦覧に供する場所】** 株式会社名古屋証券取引所  
(愛知県名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

提出会社の経営指標等

回次		第9期 第2四半期累計期間	第10期 第2四半期累計期間	第9期
会計期間		自 平成23年3月1日 至 平成23年8月31日	自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日	自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日
売上高	(千円)	1,932,718	2,303,845	4,026,929
経常利益	(千円)	149,296	138,516	190,174
四半期(当期)純利益	(千円)	144,125	135,425	182,895
持分法を適用した 場合の投資利益	(千円)			
資本金	(千円)	232,825	232,825	232,825
発行済株式総数	(株)	19,700	19,700	19,700
純資産額	(千円)	389,146	563,342	427,916
総資産額	(千円)	919,904	1,160,310	1,129,768
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	7,316.00	6,874.40	9,284.05
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)			
自己資本比率	(%)	42.30	48.55	37.88
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	199,228	273,039	234,166
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	31,686	50,167	142,673
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	38,290	42,156	100
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	446,975	589,833	409,117

回次		第9期 第2四半期 会計期間	第10期 第2四半期 会計期間
会計期間		自 平成23年6月1日 至 平成23年8月31日	自 平成24年6月1日 至 平成24年8月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	2,962.27	1,568.66

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項が発生しております。

18ページ 2「その他」に記載のとおり、当社は、株式会社ゲオホールディングス並びに株式会社ゲオより訴訟を提起され、「ゲオバイク」、「ゲオバイクDirect」等の営業表示の使用は、不正競争防止法に違反するものとして、その使用の差し止め、表示の抹消等を求められております。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当社は、平成23年9月29日開催の取締役会において決議し、有限会社ブライトとの間で同社が運営するゲオショップFC店の一部を譲り受ける事業譲渡契約を締結いたしました。平成24年8月31日開催の取締役会において、当該事業の譲受けの中止を決議し、当該契約を解約することになりました。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、復興需要等を背景に景気回復の兆しが見え始め、企業収益はゆるやかに改善しており、雇用情勢も完全失業者数が減少するなど、今後は持ち直していくことが見込まれております。しかしながら、欧州政府債務危機等による金融資本市場の変動や海外景気の下振れするリスク等により、わが国経済にも大きな影響を及ぼす可能性があります。

当社では、中古バイク事業においては、これまでと同様にSEO(検索エンジン最適化)、リスティング広告等インターネットにおける各種プロモーション活動に取り組んでまいりました。

また、ゲオショップ事業においては、平成24年6月よりゲオショップFC店舗が2店舗増加する予定でしたが、当該店舗の賃貸人より、現在の賃借人から当社への転貸借契約の承認が得られなかったため、平成24年8月に当該2店舗の譲受けを中止することを決定いたしました。その結果、同店舗は第1四半期より引き続き6店舗となっております。

当第2四半期累計期間においては、売上高2,303百万円(前年同期比19.2%増)、営業利益139百万円(前年同期比3.0%減)、経常利益138百万円(前年同期比7.2%減)、四半期純利益135百万円(前年同期比6.0%減)となりました。

事業別のセグメントの業績は次のとおりであります。

#### <中古バイク事業>

中古バイク事業では、買取台数は6,437台(前年同期比5.6%増)となりました。第1四半期としては過去最高の台数でしたが、当第2四半期は前年同期比13.0%減となっております。

当第2四半期累計期間での買取台数が増加したことに伴い、業者間オークションへの出品台数が増加し、販売台数は6,885台(前年同期比10.7%増)となりました。販売台数も第1四半期としては過去最高の台数でしたが、当第2四半期は前年同期比2.3%減となっております。

その結果、売上高は1,420百万円(前年同期比8.2%増)、営業利益は160百万円(前年同期比38.0%増)となりました。

#### <ゲオショップ事業>

ゲオショップ事業では、ゲオFC店舗が前年同期と比較して2店舗増加したため、売上高は増加しましたが、1店舗当たりの売上高は前年同期比5%程度の減少となりました。

売上種別別にみますと、各種メディアのレンタル売上及び中古のゲーム機器、ゲームソフトのリサイクル売上といった粗利率の高い商品等の売上高が減少していることが影響し、1店舗当たりの売上総利益は前年同期比13%程度の減少となりました。

その結果、売上高は883百万円(前年同期比42.6%増)、営業損失は14百万円(前年同期は営業利益26百万円)となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (資産)

当第2四半期会計期間末において総資産は1,160百万円となり、前事業年度末と比較して30百万円増加しております。現金及び預金は160百万円増加する一方、商品は59百万円、流動資産その他は44百万円、のれんは18百万円減少しております。

### (負債)

当第2四半期会計期間末において負債は596百万円となり、前事業年度末と比較して104百万円減少しております。長期未払金45百万円、未払金23百万円、1年内返済予定の長期借入金を含む長期借入金32百万円、社債10百万円、それぞれ減少しております。

### (純資産)

当第2四半期会計期間末において純資産は563百万円となり、前事業年度末と比較して135百万円増加しております。これは、四半期純利益135百万円を計上したためであります。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末の現金及び現金同等物は589百万円となり、前事業年度末から180百万円増加となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は273百万円(前年同期は同199百万円)となりました。これは主に、税引前四半期純利益138百万円の計上、棚卸資産の減少による増加額58百万円、その他の流動資産の減少による増加額55百万円によるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、支出した資金は50百万円(前年同期は同31百万円)となりました。これは主に、定期預金の払戻しによる収入20百万円及び事業譲受による支出69百万円によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、支出した資金は42百万円(前年同期は同38百万円)となりました。金融機関から新たに長期借入を実行したことによる収入100百万円があり、その一方で、長期借入金の返済による支出132百万円及び社債の償還による支出10百万円があったことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更並びに新たに生じた課題はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	78,800
計	78,800

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年8月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年10月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	19,700	19,700	名古屋証券取引所 (セントレックス)	単元株制度を採用しておりませ ん。
計	19,700	19,700		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年6月1日～ 平成24年8月31日		19,700		232,825		260,535

(6) 【大株主の状況】

平成24年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
NEWTONE INVESTMENT LIMITED(日本における代表者 石川 武明)	SuiteC,6/F,Cameron Plaza,23-25A Cameron Road, Tsim Sha Tsui, Kowloon, Hong Kong(東京都中央区湊3丁目8-1)	6,500	32.99
正渡 康弘	東京都葛飾区	4,484	22.76
吉岡 義治	千葉県市川市	2,000	10.15
後藤 延樹	大阪府大阪市中央区	782	3.97
佐藤 智之	栃木県那須塩原市	779	3.95
株式会社ゲオホールディングス	愛知県春日井市如意申町5丁目11-3	500	2.54
山田 浩司	千葉県柏市	425	2.16
齋藤 文男	東京都中央区	400	2.03
伊藤 小百合	愛知県名古屋市昭和区	377	1.91
浅井 千香子	愛知県名古屋市南区	309	1.57
計		16,556	84.04

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,700	19,700	
単元未満株式			
発行済株式総数	19,700		
総株主の議決権		19,700	

【自己株式等】

平成24年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
計					

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間までの役員の異動はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成24年6月1日から平成24年8月31日まで)及び第2四半期累計期間(平成24年3月1日から平成24年8月31日まで)に係る四半期財務諸表について、監査法人コスモスによる四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】  
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年2月29日)	当第2四半期会計期間 (平成24年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	429,117	589,833
売掛金	28,200	28,697
商品	340,061	280,786
その他	85,036	40,823
流動資産合計	882,416	940,140
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	105,596	106,408
減価償却累計額	46,348	52,200
建物附属設備(純額)	59,247	54,208
その他	33,447	33,517
減価償却累計額	20,387	21,423
その他(純額)	13,059	12,094
有形固定資産合計	72,307	66,302
無形固定資産		
のれん	152,668	134,607
その他	2,855	1,794
無形固定資産合計	155,524	136,401
投資その他の資産	19,521	17,466
固定資産合計	247,352	220,170
資産合計	1,129,768	1,160,310
負債の部		
流動負債		
買掛金	84,228	68,890
1年内償還予定の社債	20,000	20,000
1年内返済予定の長期借入金	64,990	39,036
未払金	177,908	154,657
未払法人税等	7,222	16,814
賞与引当金	-	11,130
その他	78,228	78,463
流動負債合計	432,578	388,992
固定負債		
社債	50,000	40,000
長期借入金	135,949	129,747
長期未払金	83,324	38,229
固定負債合計	269,273	207,976
負債合計	701,851	596,968

	前事業年度 (平成24年2月29日)	当第2四半期会計期間 (平成24年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	232,825	232,825
資本剰余金	260,535	260,535
利益剰余金	65,443	69,982
株主資本合計	427,916	563,342
純資産合計	427,916	563,342
負債純資産合計	1,129,768	1,160,310

(2)【四半期損益計算書】  
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)
売上高	1,932,718	2,303,845
売上原価	1,144,842	1,375,991
売上総利益	787,875	927,854
販売費及び一般管理費	644,585	788,835
営業利益	143,290	139,018
営業外収益		
受取手数料	1,144	1,932
受取保険金	2,457	140
協賛金収入	2,684	-
助成金収入	1,000	-
雑収入	1,773	2,891
その他	45	53
営業外収益合計	9,105	5,018
営業外費用		
支払利息	2,136	2,897
社債利息	757	566
訴訟関連費用	-	2,000
その他	205	55
営業外費用合計	3,099	5,519
経常利益	149,296	138,516
特別損失		
災害による損失	428	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	3,003	-
特別損失合計	3,432	-
税引前四半期純利益	145,863	138,516
法人税、住民税及び事業税	1,738	13,478
法人税等調整額	-	10,387
法人税等合計	1,738	3,091
四半期純利益	144,125	135,425

## (3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	145,863	138,516
減価償却費	10,272	8,348
のれん償却額	6,259	18,061
賞与引当金の増減額(は減少)	-	11,130
支払利息	2,136	2,897
社債利息	757	566
災害損失	428	-
訴訟関連損失	-	2,000
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	3,003	-
売上債権の増減額(は増加)	19,231	496
たな卸資産の増減額(は増加)	30,358	58,135
仕入債務の増減額(は減少)	7,750	15,337
その他の流動資産の増減額(は増加)	4,515	55,357
その他の流動負債の増減額(は減少)	26,904	734
その他	1,466	2,078
小計	204,984	281,991
利息の支払額	2,867	3,358
法人税等の支払額	2,888	3,593
訴訟関連損失の支払額	-	2,000
営業活動によるキャッシュ・フロー	199,228	273,039
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	-	20,000
有形固定資産の取得による支出	1,233	886
差入保証金の差入による支出	600	75
差入保証金の回収による収入	62	-
事業譲受による支出	29,915	69,206
投資活動によるキャッシュ・フロー	31,686	50,167
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	-	100,000
長期借入金の返済による支出	28,290	132,156
社債の償還による支出	10,000	10,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	38,290	42,156
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	129,252	180,715
現金及び現金同等物の期首残高	317,723	409,117
現金及び現金同等物の四半期末残高	446,975	589,833

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第2四半期累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。
(賞与引当金) 第1四半期会計期間において行った賃金規程の変更に伴い、従業員に対する賞与支給見込額のうち当第2四半期累計期間に属する額を「賞与引当金」として計上しております。なお、前事業年度末においては、賞与支給確定額8,250千円を流動負債の「その他」に含めて計上しております。

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

前事業年度 (平成24年2月29日)	当第2四半期会計期間 (平成24年8月31日)

(四半期損益計算書関係)

前第2四半期累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
広告宣伝費 57,133千円 給与手当 183,983千円 減価償却費 10,272千円	広告宣伝費 60,276千円 給与手当 236,572千円 賞与引当金繰入額 11,130千円 減価償却費 8,348千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)
現金及び現金同等物の当第2四半期累計期間末残高と当第2四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	現金及び現金同等物の当第2四半期累計期間末残高と当第2四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預金 446,975千円	現金及び預金 589,833千円
現金及び現金同等物 446,975千円	現金及び現金同等物 589,833千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 平成23年3月1日 至 平成23年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	中古バイク 事業	ゲオショップ 事業	計	
売上高	1,312,844	619,874	1,932,718	1,932,718
セグメント利益	116,392	26,897	143,290	143,290

(注) セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	中古バイク 事業	ゲオショップ 事業	計		
売上高	1,420,132	883,713	2,303,845		2,303,845
セグメント利益	160,593	14,696	145,896	6,878	139,018

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2 セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。



(持分法損益等)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)
1株当たり四半期純利益金額	7,316円00銭	6,874円40銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	144,125	135,425
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	144,125	135,425
普通株式の期中平均株式数(株)	19,700	19,700
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式について前事業年度末から重要な変動がある場合の概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

### 重要な訴訟事件等

当社は、平成24年5月29日付けで東京地方裁判所において、株式会社ゲオホールディングス並びに株式会社ゲオより訴訟を提起され、平成24年6月5日に訴状を受領いたしました。

訴訟の内容につきましては、当社がもともと株式会社ゲオホールディングス並びに株式会社ゲオから許諾を受けたことにより使用してきた「ゲオバイク」、「ゲオバイクDirect」等の営業表示の使用は、不正競争防止法に違反するものとして、その使用の差し止め、表示の抹消等を求められております。

当社としては、当社の営業表示の使用は不正競争防止法に違反するものではなく、正当な営業活動であって、原告の請求には理由がないものと認識しており、今後、この認識に沿った主張を行ってまいります。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年10月9日

株式会社アークコア  
取締役会 御中

### 監査法人コスモス

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 富田昌樹 印

社員  
業務執行社員 公認会計士 山下謙一郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アークコアの平成24年3月1日から平成25年2月28日までの第10期事業年度の第2四半期会計期間(平成24年6月1日から平成24年8月31日まで)及び第2四半期累計期間(平成24年3月1日から平成24年8月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アークコアの平成24年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。